

与すべしできる

ハラスメント対策

MIC女性連絡会学習会

2月20日、MIC女性連絡会学習会にBuzzFeed Japanの伊吹早織記者を講師に招き二六名が参加した。



BuzzFeed 伊吹記者からのレクチャー

BuzzFeed Japanは「対応はしている」と答えた。「外部の相談窓口も設けている」のは、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、共同通信、NHK、日本テレビ、テレビ東京。女性記者の割合は、ウエブメ

上げないのか、どう対策するのか、自分で選べる力があるのか、自分が得られるようなコンテンツを出していく。

昨年5月、伊吹記者は新聞・通信七社、放送六社、ウエブ二社に取材。

財務省の問題発覚後、時事通信、共同通信、毎日新聞が具体的な対応、朝日新聞、日本テレビ、TBS、

ディア二社では半数、新聞社やテレビ局では二〜三割だった。

多様性が多様な表現を生み多様な社会に繋がること、女性を増やし多様な議論が尊重される組織や雰囲気作りの必要性については、古田編集長が自身の記事でも指摘している。

今すぐできるハラスメント対策は三つのDがポイント。

①DIRECT 加害者や被害者にならうとしている人に直接干渉し、事態を悪化させない。

②DISTRACT 加害者や被害者の注意をひいて、問題となり得る状況を回避する。

③DELEGATE 適切に介入できる別の人に助けをもらうようお願いする。

1、誰かに頼む

例えば居酒屋で大学の同期のみんなと飲んでる最中、友達が酔っぱらった同期に絡まれて困った顔をしているのを見かけたとする。注意をしたいけど勇気がない、そんな時は誰か適

切に介入できる別の人に助けをもらうようお願いするのがいいと思う。

2、気をそらす

たとえばこんな感じに。「ビールのグラスを握る」ね？意外と簡単でしょ？セクハラをしようとしてる人の気をそらしたりする場の空気を壊したりするだけでも効果があるよ。

3、直接声をかける

「そのくらいにした方が」とか「ほら水飲んだほうがいいんじゃない？」とか言ってみるといいよ。一番大切なことは、自分の安全を第一に考えて、周りの状況を見ながら関わり方を工夫すること。

みんなも自分でできることから、やってみない？

私たちが実生活のなかで何ができるか、声を上げられない人のレベルまで立ち返って考えられたら非常に意義があることを共有し、学習会は終了した。



「1. 誰かに頼む」